



JFQA[®] JAPAN FOOD QUALITY ADVISER ORGANIZATION
日本食品保健指導士会

Vol.42

■発行所：日本食品保健指導士会 ■発行：令和3年3月19日
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27 TEL 03-6280-8336 FAX 03-6280-8337
(公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 内)

参加した指導士全員がWEB開催を歓迎！ 一方で、運営上の課題も山積！

～日本食品保健指導士会 本部研修会を振り返る～

日本食品保健指導士会（指導士会）本部では2020年度が新型コロナウイルス感染問題で、通常のリアルでの開催が困難と判断し、2020年12月19日と2021年1月21日の2回、ZOOM ウェビナーというシステムを使って本部研修会はWEB開催で行われました。

1回目の12月19日は土曜日ということもあって公益財団法人日本健康・栄養食品協会（協会）の3F会議室を使用、さらに講師の西沢先生がWEB講演に慣れており、ご自分のPCを持ち込んでいただけたこともあって比較的スムーズに運営をすることができました。ただ、演者とMCがやり取りをするとハウリングが起きること等が判明し、次回の課題として残りました。

一方、2021年1月21日に開催した2回目は、平日開催ということで協会の3F、4Fの会議室が使えず、狭い簡易会議室を使用したために感染防御で演者とMCの間に置いた“つい立”が音声を遮断してしまい、音声が聞きづらくなってしまいました。（これは前回の反省を踏まえて、中央にマイクを置いて収録したことが逆効果となってしまいました。終了後に判明しました）

さらに、指導士会の少し旧式のPCを使用したことによって画面操作がうまくいかず、サブで用意していた事務局の個人PCに取り換えたことで講演途中で時間を使ってしまったこと、直前にWEBに入れられないという方の電話対応で2人しかいないスタジオの運営担当の1名が開始時間まで時間をとられてしまったことなど、想定外のハプニングが重なり多くの課題が見つかることとなりました。

もちろん、1回目も2回目も運営事務局としては数日前に現地での電波や機材のチェック、また当日も2時間前に会場に入り、入念に事前テストを行っていましたが、聴講されている皆様には大変ご迷惑をおかけしま

したことを改めましてこの場をお借りしまして深くお詫び申し上げます。次回の反省点として活かさればと考えております。

また、アンケートに共通して寄せられたいくつかのご要望ですが、まず「すべての資料をいただきたい」というご要望が複数寄せられています。この件に関しましては、WEB開催でデータによって資料を配布させていただくために、2次利用防止や著作権保護等の観点から、どうしてもお配りできる資料は限定的になってしまいますことをご了承いただければと思います。

さらに、後日の再配信（アーカイブ）のご要望も複数寄せられています。こちらは現在、当日開催をするだけでも人数が足らず、アーカイブの場合は演者への内容確認や編集、さらに配信をクローズにするための仕組みも必要になりますので、その作業までとても手が回らないのが現状です。今後の課題とさせて頂ければと思います。



「2020年度 日本食品保健指導士会 第1回本部研修会」WEB配信風景。ソーシャルディスタンスを十分にとった配信となっています。

2020年度 日本食品保健指導士会 第1回本部研修会

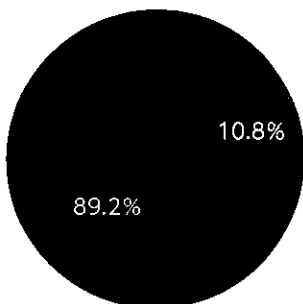
日時：2020年12月19日(土)
 WEB開催 (ZOOM ウェビナーを使用)
 講師：西沢邦浩氏
 (日経BP 総研マーケティング戦略研究所主席
 研究員)
 演題：「国際基準から遙か遠い免疫機能最新研究
 ～ビタミンDと全粒穀物を題材に～」
 【アンケート回答数 65/100 (回答率 65%)】

【受講者からのコメント】

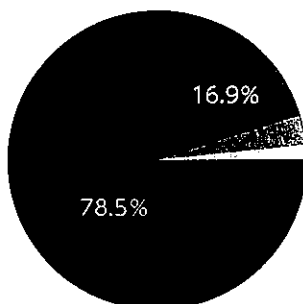
- *今回お世話になりました。西沢先生のお話に引き込まれました。タイムリーなテーマであり、資料の固さの割には柔らかいご説明で、わかりやすかったです。ぜひ今後もコロナ禍が落ち着いたとしても、WEB開催を基本としていただきたいです。ただ、会場開催の場合は資料をいただけますが、WEBはいただけないのが惜しいです…抜粋版でもいいですから、いただけないでしょうか？
- *今回のセミナーとても楽しくまた興味深く拝見させていただきました。今後もWEBでの開催を希望します。と言いますのは、私は平日、土日構わず出張に出る機会が多く、これまでのように決まった日時とその場所に行き参加することがとても困難です。過去には参加できず最終的にDVDの購入で単位を取得しました。今回のようにどこにいても参加できるセミナーはとても助かります。今後もぜひWEBでの開催もしくは、録画などの配信を出来るのであれば参加させていただきます。個人的な意見で誠に申し訳ありませんが、今回参加できたことお礼申し上げます。

- *一度アンケート送信し、「西沢先生ご講演資料をいただきたい」旨を回答しましたが、事務局より別メールでいただいております。お詫びの上、資料リクエストの旨は撤回いたします。失礼しました。
- *WEBだと参加しやすいです。
- *講師の方と司会の方が同場所で話される時に音がハウリングしておりましたので報告します。
- *タイムリーな講義だった。
- *今まではセミナーに参加する場合、鹿児島からの移動を考えると参加できないことも多く、今回のWEBセミナーは参加しやすく、非常に助かりました。
- *セミナー開催ありがとうございます。WEBだと移動せずともいろんな場所と講師の話が聞け助かります。
- *セミナーのWEB開催、ありがとうございました。アンケートの回答が遅くなり、申し訳ございません。免疫機能に、ここまでビタミンDが関与していることを知り、大変驚いております。にもかかわらず、我が国ではビタミンDの研究が立ち遅れているとのこと。その理由としてどういった背景（たとえば、もともと日本ではビタミンD不足を心配するような食生活ではなかった等）が考えられるのか、できればそのあたりの事情も知りたいと思いました。ただ「日本（人）はバカだから」ということでは無いはずだと考えます。また、全粒穀物の摂取についてですが、フィチン酸との兼ね合いについても西沢先生にお聞きしたいところでした。さらに全粒穀物関連では、「蕎麦」の研究者が日本にはほぼ「0」であるということに衝撃を受けた次第です。
- *新しい生活様式において、WEBの方が効率が良く、

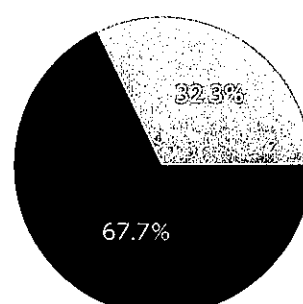
本日のセミナー内容に関して
65 responses



WEB開催に関して
65 responses



今後のWEB開催に関して
65 responses



● 満足 ● やや満足 ◎ 普通 ◐ やや不満 ◑ 不満 ● 全部WEBでもよい ○ 一部WEBがよい

視聴する場所を問わず、参加出来るのが良い。

- *今日の講師の西沢邦浩氏のお話の内容は、ユーモアも交えて、とても楽しく拝見させていただきました。栄養素、又はサプリメント等はその時代、それぞれの国の食生活の変化と共に、必要性が常に変化していくものなのだということが理解できました。情報が氾濫している昨今、その情報を的確に捉えて、正しく選択していくことが我々指導士にとって大切なのだということも、理解できました。
- *興味ある内容の研修があっても東京に足を運ぶのは正直難しく、WEBで配信してもらえるのは大変ありがたいです。全体の進行もとてもスムーズでした。今後もこの形で進めていただければありがたいです。
- *本部の皆様、お疲れさまでした。WEBセミナーとても良かったと思います。さて、意見としては、WEBセミナーは、人気で、参加者が多数になるケースが増えるのではないかと思います。指導士の人が参加漏れしないような措置、例えば、参加対象を指導士限定にする、二回配信するなど、できると良いと思います。
- *実は牛乳にビタミンDを入れた商品（種類別ではVDが入っているので乳飲料表示）がありますが、あくまで嗜好飲料というポジション商品で、チカラを入れて売る努力はせず、機能性表示食品にはしていません。スーパーなどの量販店に案内も特にしておりません。そして、なぜVDが入っているのか？と聞かれた場合のみ、VDがカルシウムの吸収を助けるという話しか案内しておりません。今後、民間で有意性のあるという査読つきの論文が複数出て、今回お話いただいた話の内容が機能性表示食品の免疫系で表示できるならば、企業でもぜひ機能性表示食品にしようという流れになるのではないかと思います。今後の行政の動きとして、VDの免疫系の機能性表示ヘルスクレームになる可能性はありますでしょうか？量販店や一般消費者に案内できるようになれば、国内でも売りやすくなり、浸透していくと思います。
- *ご準備たいへんにご苦労様でした。現今の状況では、WEB（zoom）開催しか無理な状況だと思います。今後ともよろしくお願いたします。
- *もう少し時間をとって良いと思う。もっとお話しを聞きたかった
- *とても有意義なセミナーをありがとうございました。
- *①個人的な事情で大変申し訳ございませんが、遠方であるということと、小さい子供がおりますので、今後もコロナに関係なく、WEB開催をしていただけると



第1回本部研修会の講師、西沢邦浩氏
(日経BP総研マーケティング戦略研究所主席研究員)

知識も深まりありがたいです。②見逃し配信などはありませんでしょうか？1週間程、復習するための配信があると嬉しいです。

- *コロナの折、タイムリーな話題を取り上げて頂き、参考になりました。
- *初めてのWEBで心配しましたが大変参考になる話が聞けて良かったと思いました。毎年色々な講演がありますが、地方にいと中々参加できないことが多いのでWEBでの研修は大変助かります。ありがとうございます。
- *本当にお疲れさまでした。気にしながらも何もお手伝いできず参加することしかできませんでした。内容は現時点で大変学ぶ事が多かったです。
- *ウエビナー開催は賛成です。しかし事務局に作業が大変なことを推察しています。普段、研修会に参加出来ない地方の会員は喜んでおりますので、ウエビナーを今後も続けて下さい。集合研修との併用を考えて下さい。有難う御座いました。
- *タイムリーな講義でとても参考になりました。有り難うございました。
- *我が国ではあまりエビデンスの無いテーマでしかもタイムリーなセミナーで参考になりました。
- *受講させていただき、ありがとうございます。ビタミンDや全粒穀物に対する認識を新たにすることができました。また、ヘルスクレームを敢えてせずに興味を持たせる、調べさせる方法があることなど、面白く感じました。コロナ禍にあり、WEB開催であっても情報を得る機会をこれからも持てたらと思います。
- *たいへん興味深く役に立つ内容でした。ありがとうございます

- ございました。
- *画面共有で資料を拝見できるので見やすく、理解しやすかったです。遠方でも参加できるので大変助かります。
 - *出かけることなく遠くで開催されるセミナーにも参加できるので便利でありがたいです。マンツーマンのレッスンのように講師の方と向き合って勉強出来るのも魅力と思います。
 - *タイムリーな話題であり、またコメントが全てエビデンスに基づいており、説得力があり引き込まれました。大変参考になりました。当方の対応にも原因がありますが、資料が聴講時に間に合わず早めのアナウンスが頂けたら良かった。
 - *先Zoomを使った研修会は、時間や距離を超えて、貴重なお話を聞けるという、地方在住者にとっては大変ありがたいです。今後ぜひ開催頂けますと幸いです。
 - *ウェブ開催は平日は避けてほしい
 - *運営進行に関しましては事務局の方に大変お世話になりました。WEBでの実施はコロナ対策もでき、移動の時間・費用の出費もなく、私には合っています。日時につきましては、仕事以外で視聴勉強できる時間の土日を今後も希望します。
 - *はじめてのzoomの講習会ありがとうございました。私自身したことが無く不安だらけでした。なんとか終えられてほっとしております
 - *指導士会の方には講習設定ありがとうございました。西澤先生のお話も日本の体制に疑問を持ちながら内容に興味津々で聴講いたしました。ありがとうございました。内容豊富で充分に見れなかった資料などありましたけれど、教えて頂いたキーワードを基に自身で問題点に関心持って調べたいと思います。ありがとうございました。
 - *いつも日程の問題で受講出来ずにおりました。WEB開催は移動時間がないため、今後もこのスタイルであれば、参加できる講習会が増えそうでありがたいです。
 - *今回の参加者が多いのは、西沢先生が講師であることが大きいですが、webで開催されたことによると思われる。さらに加え事務局のご努力が大きい。先生のご講演を事前に録画したもので行い、質問は別途メール等で受け、事後回答でもよいのではないかと。スタッフ不足をいかに補うか、いかに継続するかを考えたほうが良いのではないかと。
 - *事前に送付されたレジュメがあり、後日の学習に活用できます。西沢先生のテンポが快適、データも多く大変参考になりました。どら焼きを食べながらのセミナー受講、大満足です。
 - *担当者様、お疲れさまでした。
 - *これからも、ズームセミナー、お願いします。
 - *西沢先生には、大変興味深いお話をいただき、感謝申し上げます。エビデンスに基づいた栄養素などのお話はとても好きな分野で、とても楽しく拝聴させていただきました。冒頭、会長から、パソコンのできる人は協力してほしいとのご提案がありましたが、私にできることがあればお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、もし宜しければご連絡ください。
 - *初のWEB開催にあたって、何かとご苦労があったかと思いますが、とても良かったと思います。お世話になり有り難うございました。今回のようなセミナー形式であれば、WEB開催は何の問題も無く参加者にとっては、セミナー会場への行き帰りの時間の節約にもなり大変便利です。指導士会の総会などの特別な場合を除いては、WEB開催の方が便利だと思っています。
 - *本日は始まる前にお電話で対応していただきありがとうございました。なかなかZOOMの待ちが長く焦ってしまい申し訳ありませんでした。
 - *WEBセミナーは、感染リスクだけでなく会場までの往復の時間を考えると参加しやすいと思います。今回のテーマは、最新のエビデンスも知ることができ大変役に立ちました。開催にあたり準備等、ありがとうございました。セミナーの時間についてですが、会長の話や講師紹介、質疑応答を考えると2時間でもよいように思いました。
 - *本日のセミナーに参加して、魚介類や全粒穀類等「食の健康機能の再認識」そして「和食、古くからの日本の食事の健康性」に改めて感心し、今後の保健機能食品や健康食品の在り方のヒントとなりました。準備等含めありがとうございました。
 - *新型ウィルスが落ち着けば、会場参加とWEB参加の両方実施による選択参加セミナーを運営して頂きたい。
 - *今回の講習内容は非常に興味深く聞かせて頂きました。最新の情報を常に発信して頂けると新商品の開発に先取りするして取り組むことが出来るので今後も期待しております。鹿児島住みの為、交通費等を考慮するとWEB開催はありがたいです。

2020年度 日本食品保健指導士会 第2回本部研修会

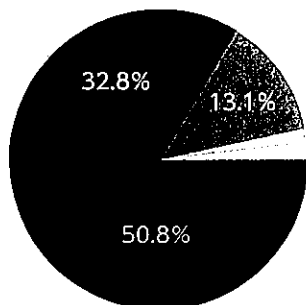
日時：2021年1月21日(木)
 WEB開催 (ZOOM ウェビナーを使用)
 講演：ビッグデータで健康の未来を予測する
 -ニューノーマル時代の
 未来型ヘルスケアサービス (DX) の追求-
 講師：弘前大学 村下 公一 教授
 COI 副拠点長・戦略統括 (SL) 健康未来イノ
 ベーションセンター 副センター長 (企画担当)
 【アンケート回答数 61/96 (回答率 63.5%)】

【受講者からのコメント】

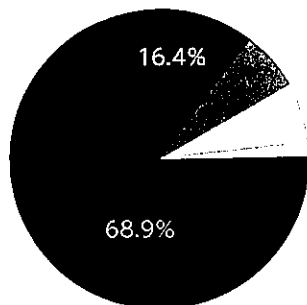
- *ビッグデータ解析による健康経営のヒントが拝聴できてよかった。コロナ禍での新講演会、会長・広報部長・スタッフのご苦勞のお蔭で、居ながらにして学びの機会をいただきました。有難うございました。
- *スライドの字が小さくて、スピードについていけず、webinerの工夫せねばならないところでしょうか、画面をズーム確認できる自由時間がもてるようにすると被研修者の理解度が上がり、喜ばれるとおもいました。数日再視聴ができるようにすることができるといいでしょうか？
- *大規模データを見ることができました。具体的に大手の企業の協賛・協力実態がうかがえ現実的でした。
- *時間帯が土曜日午後などと参加しやすいです。
- *本日のセミナー、ありがとうございました。地方に住んでいるとWEBの方が参加しやすいけれど、講師とのコミュニケーションの面を考えると対面の方がとも思います。いろいろなお話を伺える機会を考えるとWEB開催もありがたいです。今後ともよろしくお願ひ致します。
- *興味深い内容を取り上げて頂き大変良かったです。

- Web開催も今の時期には大変有り難い企画です。スタッフの皆様へ感謝です。有り難うございました。
- *生活をする上でも有益な情報がたくさんありましたので、早速、学んだことを周りの人にも一部情報共有させていただきました。ありがとうございました。
- *今まで遠方で行けないセミナーや土日開催のセミナーに参加出来ず単位を取るのが大変だったので、今回のWEBセミナーの開催はとてよよいと思いました。
- *前もって資料がダウンロード出来たらよいのですが。
- *事前のアナウンスでは13:15から入出できるとのことでしたが、当日は30分にしか繋がらず大変不安でした。講演内容は良かったのですが、トラブルもあったせいか早口で聴き取り辛かったことだけが少々残念でした。
- *健康維持する為の分かり易い説明でした又その為に色々な角度から様々な企業が研究されていることを知ることができました。運動不足に世界はどう立ち向かっているのか知りたいと思いました。
- *二度目のチャレンジでも良く出来たと思います。講演は、研究内容が膨大で、全体像をつかめなかったもので、説明を良く理解できなかつた。また、投影資料も文字が多く、残念ながらついて (理解) いけなかつた。ポインターを使えばある程度解決出来ると今思いました。お疲れ様でした。
- *講演のご準備、ありがとうございました。WEBセミナーは使い慣れないことも多く、ご準備も大変だったかと思ひます。準備をしたり、切り替える際に音声をオフにすることを徹底するだけでもだいぶスムーズに見える・聞こえるかと思ひます。また、クイズなどを出すときは、アンケート機能を使ってみてはいかがでしょうか。全員参加ができて楽しいと思ひます。本日

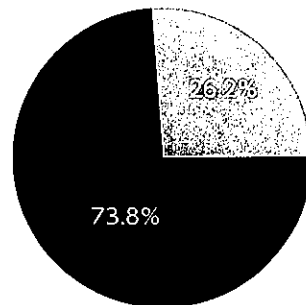
本日のセミナー内容に関して
61 responses



WEB開催に関して
61 responses



今後のWEB開催に関して
61 responses



● 満足 ● やや満足 ⊕ 普通 □ やや不満 □ 不満 ● 全部WEBでもよい ○ 一部WEBがよい

はありがとうございました。

- * 演者のスライド送りが早すぎてついていけなかった。
- * 事務局の声が小さくて聞き取れなかった。
- * 少し早口でしたが内容は豊富であり、満足です。
- * 健康に関わる諸因子について確認できました。
- * 素晴らしい内容でした。ただ、視聴するときに演者の顔がスライドを隠してしまうため見づらかった。
- * 内容は興味深かったのですが、駆け足になってついていくのがやっとでした。WEB設定で時間をとってしまった分は仕方がないのですが、延長していただいても構わないと思います。先生のご都合次第ですが…
- * 地方在住なのでコロナに関わらず全部WEB開催にさせていただきたい。単位を取るために今日のような内容で出張して参加するのは非合理だと思います。機器の設定などはリハーサルしてから時間の無駄のないようにしてください。無償ではなく有償セミナーに業務中の時間を割いて参加しています。よろしく願い致します。
- * 先生の資料が豊富で、とても解りやすく勉強になりました。有り難うございました。
- * Webinar の環境は第1回のシステムの方が良いと思いました。今回はスライド画面から講師の声が流れるだけで、講師の温かみを感じられなかったです。また録画を禁じたのに、講義内容の配信資料がなく、聞き流しになってしまいました。一般に講演会では要旨の配布があり、それにメモを取ることが出来ます。今回は120コマもありメモと取り切れませんでした。
- * お世話になりました。しかし振込時登録番号記載しましたがウェブで繋がったのは2/3からでした。残念でした。次回このようなことのないよう注意払いたくまたよろしく願いいたします。



「2020年度 日本食品保健指導士会 第2回本部研修会」準備風景。日健栄協 4Fの狭い会議室での配信だったこともあって、トラブルが続出しました。

- * webでの講習会はとてもわかりやすく、ビックデータの活用など具体的な事例を上げてくださりこれからは国も予防にシフトしていることがよくわかりました。
- * 講演者も聴取側も未だWEBには慣れていない。通常の対面講演会とWEB講演会では、使う機材もスライドも変える必要があると感じた。
- * お話が早く少し聞き取りがしにくかった。資料が事前に欲しいです。
- * 講義内容に驚きました。これから研究データが活用され健康管理に役立つ日が楽しみになりました。スライドが速過ぎたのが残念でした。
- * 有料でも良いものがあればと思います。
- * Zoomミーティングの月も有りがちも
- * 事務局のご挨拶の時に、村下先生のお顔だけしか映っていなかったり、PCの切り替え以降マイクの音がハウッたり途切れたりして、事務局のご対応も大変だと思いますが、事前の調整がもう少しできているとよいと思いました。
- * 大変多い情報量で、参考になりましたが、もう少し健康食品業界の人にとって活用できるところに時間を割いて詳しく説明があるとよかったです。併せて、今回は取り組みの紹介だったが、これらの取り組みから得られた成果・結果についてが聞きたかった。
- * 機器操作おつかれさまです。事前のリハーサルが必要でしたら、チェックしますのでお声かけください（音声、PPTの展開など受け手側の立場で確認します）
- * 最後の質問の部分は事務局の音声と先生の音声のバランス？ が悪く質問が聞き取れませんでした。先生の声はよく聞こえたので質問を想像しながら聞いていました
- * 一口に健康長寿と言っても切り口は多様にあること、今までざっくり運動、食物、休養（睡眠・リラックス）、心の持ち方の4つの視点で考えてきましたが、それは自分自身だけのことで、広く社会的に健康長寿を広めるには行政や企業、研究所などの教育機関、などと広く関連を持ち推進することを強く感じました。まさに食品保険指導士の仕事かな、と細谷先生の講義を思い出しました。ありがとうございました。
- * 講習会参加させていただき、ありがとうございました。膨大なデータを利用することで、隠れた関係が見えてくることや、簡易に診断が利用できる可能性が見えてきました。ただし、どのデータが必要であるのか、どんなデータが不足しているのかを見つけるのも大変であるとも感じました。

日本食品保健指導士会

関東支部

Kanto branch

支部長 横山次郎
副支部長 鳥沢泰弘

食品保健指導士の皆さま、こんにちは。関東支部長を仰せつかっております横山次郎と申します。さて、コロナ禍のこの一年間、皆様はどのように過ごされましたでしょうか？ 日本のみならず全世界で色々な事ががらりと変わった一年だと思います。下名も、昨年2月ごろは、web商談ももどかしかったのですが、今ではコミュニケーションも（少しは）とれるようになり、結構慣れるものだと自分ながら感心しております。また、各種学会もweb開催になり、出張による身体的疲れも無く（各地の美味しいものが食せないのと、新たな出会いが無いのは非常に残念ですが）、また、学会によっては、オンデマンド配信もあったりで、復習できるのは嬉しいです（が、年齢と共に記憶力が低下し、いちよう葉かDHA/EPAが必要だと実感しております）。

（公財）日本健康・栄養食品協会も矢島様が新たに理事長につかれました。また、指導士会も松山会長が続投してくださり、新役員体制で活動されています。関東支部も皆様のお役に立てるよう、微力ながら役員一同力を合わせて、情報発信に取り組んでいきますので、是非、色々なイベントへご参加ください。そして、支部活動の運営側にもご参加ください。お待ちしております。それでは、今後ともご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

日本食品保健指導士会 関東支部 支部長
横山 次郎



日本食品保健指導士会

本部研修会を見学させて頂いての感想

2020年度が新型コロナウイルス感染問題で、通常の研修会開催が困難となり、2020年12月19日と2021年1月21日の2回、ZOOMウェビナーにて本部研修会が開催され、今後の関東支部の運営の勉強の為、仕事を休んで見学させて頂きました。運営側は松山会長、継田さん、大久保さんの3名でした。お疲れ様でした。



1回目は公益財団法人日本健康・栄養食品協会の3階会議室を、第2回目は4階をお借りし実施となりました。2回共に協会小林部長には早くに会場の準備をして頂きました。ありがとうございました。

初めての試みの為、PCに不慣れな方のためにZoomに入れるかなどのテスト日を設けたり、事前の案内など、きめ細かなもので私個人では思いつかない事ばかりでした。開始15分前からの入出可能との事前案内でしたが、実際には1時間前から入出が出来るように準備されていました。このような形で色々準備をしても、ウェブ環境が良くなかった方や、操作の仕方がわからない方、直前になり入れず松山会長に連絡をされてきた方などもあり、色々準備をしてもトラブルがあるものと思いました。現場はドタバタでした。2回目の時には村下教授の御好意で事前に簡略版ですがレジュメの配布をして頂いており、そちらのURLにアクセスすれば見れると思っていた方もいたようです。様々なトラブルなどを想定して準備をしないといけないと感じましたが、私自身も私の仕事があり、どの程度のトラブルを想定して対応策を考えればいいかが難しいところだと思います。

身内の事をほめているだけと思われるかもしれませんが、運営側は皆、自身の仕事を持っており、うまく調整しながらのボランティアでこの会を運営していますので、実際にお手伝いさせて頂くと見えてくるものがあります。色々ご意見などがあるかと思いますが、少数精鋭で運営しています。もちろん手を抜くつもりはありませんが、色々なトラブル、ご要望などを改善しながら良いオンライン講習会が出来るようにして参りますので、皆様のご協力、宜しくお願いします。

関東支部 副支部長
鳥沢 泰弘

日本食品保健指導士会

東海支部

Tokai branch

支部長 荒木 陽子
副支部長 松井 直也

* 活動状況について

2020年度、東海支部・食品保健指導士会の活動はコロナ感染拡大防止のため、春季研修会および秋季研修会の委託事業はじめ総会も中止をせざるを得ませんでした。講師の先生方をはじめプランニングから会場の準備等に携わった会員の思いや努力を鑑みると断腸の思いでした。いつ終わるかもしれないコロナ禍で、3月6日に「特別研修」としてWEBの開催も併用で下記2題の演題で実施するに至りました。

①「歯周病専門医がオススメする

～健口から始まる歯ッピーライフ～

長縄 敬弘 先生（東山デンタルクリニック 院長）

②「新しい感染症の出現と対策

～ヒトと微生物の一万年戦争～

腰塚 哲朗 先生（岐阜薬科大学 准教授）

新しい感染症の講演について腰塚先生から概要を下記に頂きましたので紹介します。

「現代日本は高度な医療や生活インフラに支えられ、健康長寿が実現されている。そのような日常では感染症の存在は忘れられがちである。一方で、新型コロナウイルスのように、新しい病原体の出現は非常に大きな社会問題となる。病原体はどこからやってきて、我々の社会にどのような影響を与えるのか。パンデミックを乗り越えた先に、我々はどのように行動すればよいのか。本講演では、感染症と人間のかかわりについて概説する。」

* 東海支部の役員人事について

岐阜ブロック長であった斉藤弘敏氏が移転されました。そこで、新たに岐阜ブロック長として、株式会社UNIGEN 医薬品 工場長の西村英剛氏が誕生しましたので紹介します。

日本食品保健指導士会 東海支部 支部長
荒木 陽子



西村 英剛 氏

日本食品保健指導士会

関西支部

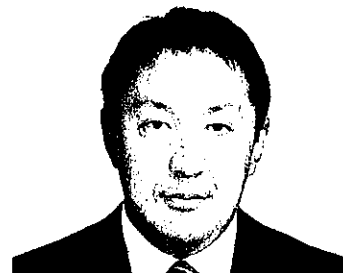
Kansai branch

支部長 蓬郷 健
副支部長 近江 信夫

この度コロナ禍でのオフライン研修会開催が難しい中、初の試みとなりますDVD研修会を実施しました。美作大学 食物学科教授 桑守正範様に「健康食品・栄養機能食品・機能性食品開発に当たって地域資源を活用」といった内容でオンライン講義を行い購入注文後、映像データ・レジュメを各会員に送付しました。特定保健用食品の場合は、事業者が届け出をしたい製品を用いて有効性や機能性の評価をヒトで本当に効果があるのか実際に試験をしなければならないことに対し、機能性表示食品は安全性の確保、科学的根拠に基づいた機能性が、事

業者の責任において表示できるため前者と比較して登録する時間も費用も少なくてすみます。2025年日本では団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、約2,200万人、国民の4人に1人が75歳以上という超高齢社会に突入します。コロナ禍では、次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成、免疫力向上、疾病予防対策が求められています。食事の手間を省き内容・形態等改良し本人、第三者（医療従事者・家族・親戚）の困りごと・手間も解決できる食品を各指導士が勉強し、アドバイスすることで健康寿命延伸に貢献していきましょう。

日本食品保健指導士会 関西支部 支部長
蓬郷 健



日本食品保健指導士会

九州支部

Kyushu branch

支部長 徳永睦子



〈九州支部活動記事〉

この一年余り、新型コロナ感染で日本はもちろん世界の人々が難しい生活を強いられました。九州支部も令和2年4月以降、会合も、総会もすべて中止せざるを得ませんでした。世界は想像以上に感染症に弱いのだということを見せつけられた一年でした。

その中で会員の皆様の単位習得に欠かせないセミナーを九州支部は全国に先駆けて、昨年11月第1回オンラインセミナーを開催いたしました。講師は九州大学大学院農学研究院機能性多糖分析学宮崎義之先生。演題：コロナ対策一免疫力UPの成分フコイタンを中心に。会員の皆さんに今一番の興味の深い議題で関心がありました。リモートセミナーでいろいろ発信において苦勞もありましたが、無事に多数の参加もいただき、予定通り行うことができました。支部と会員の繋がりを感じられた一日でした。2021年2月に第2回目のオンラインセミナーを行います。ウイルス対策にも注目されている「お

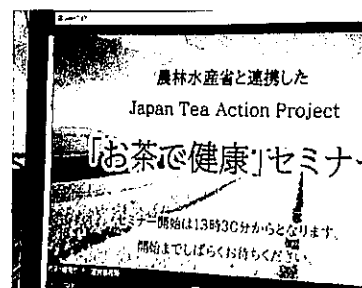
茶の機能性」がテーマです。1部講師は一般社団法人お茶結びプロジェクト理事長・料理研究家の徳永睦子先生、演題：元気な体づくりのための茶育です。2部講師は静岡県立大学教授：海野けい子先生、演題：緑茶テアニンの抗ストレス作用 3部の講師は山本万里先生国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究所・ヘルスケア、演題：機能性表示食品と緑茶の活用です。茶業界を牽引する先生の講義を受けます。今回で2回目ですが関東からの参加者もあります。オンラインセミナーが定着すると、全国からの参加もしやすく、多くの方に情報が届けられると思います。これからも工夫を重ねより良いセミナーができることを願っています。なかなか終息の見えない新型コロナ感染拡大ですがワクチン接種に希望と願いを託して世界中が元気を取り戻せることを祈っています。

日本食品保健指導士会 九州支部 支部長
徳永 睦子

2020年度 日本食品保健指導士会 九州支部事務局からの一言

2020年はコロナ感染拡大緊急事態宣言が発出され、4月以降はいろんなイベントや指導士のPR活動が制限された厳しい年でした。その中であって九州支部は先陣を切って第1回リモートセミナー、第2回リモートセミナーを開催することが出来ました。初めてのリモート開催の為、食品保健指導士のご案内方法、入金確認、リンク先連絡、テスト期間の準備、講師の方との操作確認、当日のトラブル回避や対応など初めての体験でした。本部広報よりマガジン掲載があり、第2回目開催は関東からの参加者もあり、リモートセミナーのメリットもありました、食品保健指導士の皆さんも単位取得に多いに貢献したようです。運営面に於いて遠距離操作方法の為、講師のご協力が必要で今回は問題もなく対応が出来ました。第1回演題は「感染症予防コロナ対策一免疫UPの成分」と九州大学大学院宮崎義之先生の講演でした、今まさに旬な機能性表示食品（フコイタンを中心に）、サプリメント活用も含めたご講義でした。第2回目のセミナーは1部DVDセミナー講演も取り入れた、新しいシステムで日本茶業体制強化推進協議会のご協賛で「日本文化お茶の健康効果」についてご講演いただきました。2021年度も活動の制約があると予想されますが、知恵と工夫で難局を乗り越えていきましょう。次回もご期待の沿えるセミナーを準備します。ご期待ください。

日本食品保健指導士会 九州支部事務局 松林 吉彦



指導士会はニューノーマル時代に合わせて再構築の必要!?

ヒト、カネ不足は深刻!

～日本食品保健指導士会 2020年度 幹事座談会～



松山 理恵子 会長



平山 紀美子 幹事



大久保 将樹 幹事



菅原 恵子 会計幹事



長澤 昌樹 会計幹事



松林 吉彦 九州支部 事務局

松山 幹事の皆さん。いつも日本食品保健指導士会（以下：指導士会）の運営にご協力をいただき、ありがとうございます。今日は皆さんが幹事として活動している中で、指導士会や食品保健指導士（以下：指導士）などに対してのご意見をお伺いできればと思います。

菅原 私は会計を担当させていただいています。設立時のことはよくわからないのですが、日当・旅費等のお金に関わることも含めて一度会則全体を見直した方がいいのではないかと感じています。さらに、公益財団法人日本健康・栄養食品協会（以下：協会）との関係も養成・認定していることはわかりますが、その他の関係がよくわかりません。

松林 本部や各支部と同じかと思いますが、九州支部も現場で実際に手伝っていただける方が不足し運営で苦労しています。また、活動の中で感じることは「指

導士」の社会的な認知度が低いですね。さらに、日本栄養士会や日本チェーンドラッグストア協会など、健康にかかわる他の主要団体との接点もほとんどありません。ここは今後の大きな課題かと思います。

平山 今年度はコロナ禍で、イベント等でのアピールが全くできませんでした。そんな中で、協会からフォローがなかったことは残念に思います。私はNR-サブリメントの資格も持っていますが、他では認定している団体からいろいろなフォローがあります。もちろん、仕組みが違うことは理解していますが、それでも資格を認定している以上、何らかのフォローはしていただければと思います。

長澤 会計監査で指名をいただきましたが、仕事が忙しくなかなかご協力ができず申し訳なく思います。指導士として様々な研修に参加する機会をいただき、そ

れらは自分の知識を高めるという意味では役にはたっていますが、日々の仕事の中で感じることは、健康食品や食、栄養に関しての説得力は圧倒的に管理栄養士さんやメディカル関係者の方があるということです。有名無実の逆で、指導士はある程度実はあるのに名がないように感じます。

大久保 私は、特にWEB関係を担当させていただきました。今年度はコロナ禍ということで、ZOOMウェビナーを使ったセミナーや会議を行う中で、地方の方々や忙しい方々も参加しやすくなったのではないかと感じております。一方で、セミナーに関しては、見逃し配信やアーカイブ配信などができれば、さらに参加者も増えるのではないかと考えています。ただ、そのためにはシステム作りや編集等の作業がプラスオンされまです。今でさえ、運営する人数が足りませんので、そこが大きな課題かと思えます。

松山 ここにいる皆さんは実際にお手伝いいただいているのでまさに実感されていると思いますが、現在の指導士会の大きな問題の1つは運営に協力していただく人が全く足りないということです。しかもほぼボランティアでの活動ですので、危機的な状態です。さらに、会費や運営資金等のお金の問題、規約、資格の意義の見直しなど問題は山積しており、このままでは指導士会の存続自体が難しくなってきます。

松林 指導士会の組織の問題と指導士という資格の問題は分けて考えないといけないと思います。現在も産まれ続けているわけですから、協会ともういちどきちんと話し合う時期なのではないでしょうか。人間の健康に一番寄与しているのは「食」です。しかしその分野のイニシアティブをとっているのは管理栄養士や医師というのが現状ですし、残念です。

菅原 私は教育の現場にいましたが、子供だけでなくその親御さん達も食に関しての知識があまりにもないことに唖然とします。とても、子供たちの健全な心身が育まれるとは思えません。何とかしなければと思うのですが、教育は様々な縛りの中で行われていますので、残念ながらどうすればいいのかがわかりません。

平山 勉強に関しては、ある程度意識の問題だと思います。食品の栄養や機能性に関しては、今の時代は書物や信用できるサイト等からいくらでも自分で勉強できると思います。ただし、それらに対するサポートは協会からしていただけると嬉しいと思います。

長澤 もちろん、中立性を保つことが前提条件にはなりますが、実際に情報発信している姿を、いろいろな方法で関係企業さんにアピールすることもひとつの手かとは思っています。

大久保 会員同士の情報交換や交流も必要だと思います。セミナーだけではなく、ミーティングや交流会などもオンラインで行ってはいかがでしょうか。学びの場としても、活用できるのではないかと思います。

菅原 事務連絡のようになってしまっていますが、事務局も手薄ですので書類の記入や問合せ先の間違い、また電話での問い合わせの時間について考慮していただけると助かります。会費の未納者問題が、解決できていないのも気がかりです。

松山 指導士会の設立当時は、まだWEBも不十分で情報源が限られていました。しかし、今は逆に情報があふれています。その時代に合わせた指導士会をもう一度、再構築する必要があるのかもしれない。たくさんのご意見ありがとうございました。

日本食品保健指導士会の役員を急募！

日本食品保健指導士会は、現在の役員（幹事、会計、広報）が任期満了のため、2021年度は役員交代の時期となります。（本来は2020年が交代期でしたがコロナ禍のため暫定で1年延びました）

そこで、本部、支部ともに役員に就任していただける方々を広く募集します。指導士会全体の活動方針や活動内容等を決める「幹事」、経理をしていただく「会計」、そして会報制作やメールの配信を行う「広報」などの仕事があり、また、各支部にも同様の仕事があります。

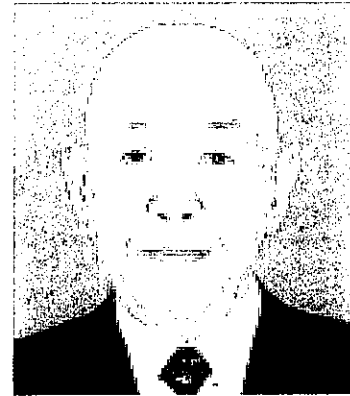
ぜひ、「我こそは！」という方は日本食品保健指導士会のメール（info@jfqa.jp）または指導士会携帯（070-6973-3755）にご一報ください。多くの皆様のご連絡をお待ちしております。

日本食品保健指導士会18年目をむかえて 会員からのコメント

「食品保健指導士」誕生の大儀と現状

初代会長(H15.4~19.3) 杉浦 上太郎

食品保健指導士が誕生して18年を迎える本年ですが、残念ながら未だ世間の認知度は皆無に等しい状況です。本来もっと生き活きた活動集団であるべきなのになぜそうならないのか、少々考察いたしました。



1. 平成14年、食品保健指導士(以下指導士と記す)は、 国の保健政策に寄与する大儀のもとに誕生した

- ①平成14年、厚生労働省(以下厚労省と記す)は、「保健機能食品等に係るアドバイザースタッフ(以下ASと記す)の養成に関する基本的な考え方について」を公表した。
- ②その趣旨は、保健機能食品等をASの指導によって国民に適正活用を促し、セフルメディケーションの実を挙げようというもの。
- ③厚労省がAS制度を策定するに当たり、当時の(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)の細谷理事長が大きく関わった。
- ④平成14年10月、わが国初のASとして食品保健指導士が誕生した。
- ⑤平成15年4月、食品保健指導士会(当時の呼称、以下指導士会と記す)が、日健栄協の協力のもとに誕生した。
- ⑥以後、指導士会は、指導士による講演、能力アップ研修、支部設置など諸活動を展開してきた。

2. 次第にアドバイザースタッフ(食品保健指導士) 誕生の大儀が衰退傾向

- ①平成21年、消費者庁が誕生し保健機能食品等の主管は、厚労省から消費者庁へ移管された。
- ②平成28年、「機能性表示食品制度」が誕生した。
- ③これらの新たな動向の推移に伴い、関係機関のASの大儀が衰退傾向になった。
- ④指導士の社会的使命感が希薄となり、会の内部に閉塞感が漂い始める。

3. 提言/「ディスカバー・アドバイザースタッフ」 のビジョン確立

- ①生活者は困っている(誇大広告の氾濫、適正情報の取得難、他)。
- ②関係機関は、問題山積の健康食品市場の現状を認識し、発奮すべきである。
- ③日健栄協に本来の機能を取り戻すよう要望する(業界内にて強力なリーダーシップ発揮、行政への強い働きかけ等)。
- ④日健栄協は、再度消費者庁と協議し、現在版「AS活動指針(ビジョン)」を確立し、新たな大儀を示すべきである。
- ⑤日健栄協は、再度、食品保健指導士会と表裏一体の関係を強化すべきである。

指導士が必要性の高い職能であるにも関わらずその普及が停滞しているのは、主管官庁と日健栄協の怠慢だと思います。

片肺飛行のような状況の中、指導士会は健気に頑張ってきました。我々の努力の経緯を無にしないためにも、ぜひ「ディスカバー・アドバイザースタッフ」のビジョン確立に総力を挙げて当たりたいものです。

指導士会活動の存続意義はあるのだろうか

第2代会長 関本 邦敏

(財)日本健康栄養食品協会が2001年(平成13年10月)に保健機能食品に係るアドバイザースタッフ養成制度(食品保健指導士認定)を厚労省の意向を付度してスタートさせた。協会が厚労省の公式見解(2002年2月)より早く一般消費者等に対する優れたアドバイザースタッフの養成を目的に食品保健指導士養成講習会をスタートさせた制度である。当時としては社会的にも必要性があった。その後、2003年(平成15年)4月1日に日本食品保健指導士会が協会から独立した形で発足し、今年で18年になろうとしている。受講し資格を得た人のスキルアップと情報交換や親睦を目的として自発的に発足したのである。本来卒後の縦・横のつながりを深めてこそ消費者への活動が広がるが、協会は産むことはしても育てることをしようとしないうちにできた会であるともいえる。

当時は健康食品が市場で広く販売され、海外からの輸入品も多く、健康被害も多発していた時代であった。この制度が広く受け入れられた背景でもある。「医薬品は薬剤師が、食品は栄養士が指導できるが健康食品は誰が指導できるのか」という事も背景としてあった。受講した方の多くが将来に役立つ資格であると思っていた。厚労省の肝いりであったことから将来的には国家資格になるか、あるいはそれに準じるのではないかと思いついてきた人も多かった。制度が始まって20年、指導士会が発足してから18年経過した今日、そのような動きは全く見られない。あまたあった認定機関は3、4団体に減っている。受講生の応募も激減しているのが実態である。この資格が本当に役立っているのか、社会的な要望が今でもあるのか絶えず自問自答している。

一方、指導士会の必要性を考えるとここ数年来受講者は減り、有資格者も指導士会には加入しない人が増えている。嘗ては、指導士会活動も幹事会も活発な活動・運営がなされてきた。今は世話人を引き受ける方も減り、



会長のなり手はいないようである。本来卒後の面倒をみるのは協会が行うのが筋である。一度立ち止まって将来の展望を考える時に来ていると思う。特定の人に世話役を押し付けている現状は個人的な犠牲が大きすぎる。誰かがやってくれば継続してほしいというのは無責任である。アンケートなどで意見聴取も必要であろう。支部の見解なども伺う必要がある。スキルアップの機会の停滞が心配という事であれば、学会、業界団体のセミナー、市民講座、協会の講習会等多くの機会がある。ネットでも情報は手に入る。学ぶ機会は沢山ある。指導士会を頼る必要はない。有資格者自身がこの資格の必要性と指導士会の必要性を考える時期であると思う。この際を閉じて協会に渡すことを事務局長に提案して見たら如何か。産みの親が育てることを放棄しないように申し入れ拒否されたら指導士会は後継者が出てくるまで休眠するのが良いのではないかと思う。

立候補は無くても頼まれれば引き受ける方が嘗てはいた。そのような方が出てくることを願う。資格の更新をする人がいる以上この資格の必要性は認めるが私個人としてはこの資格も指導士会も寿命が来ているのかもしれないと思っている。



指導士は食・生活習慣まで幅広くアドバイスする立場

食品保健指導士 永島 正一



私が松山さんとお知り合いになれたのは、10年前の平成23年頃だったかと思います。松山さんが食品保健指導士会の会長になられた折り、私も幹事としてお手伝いすることになりました。当時、松山会長は食品保健指導士の「社会的認知を高めていこう、活動の場を広げよう、指導士の数を増やそう」などの情熱に満ちており、私たち幹事もそれに引っ張られるかたちで会の運営にあたっていたように記憶しています。

ところが実際は中々大変でした。「講習会、健康博覧会、会費の徴収と配分、会報の作成、それに協会との協議・調整」というように、数多くの実務に対処しなければなりません。私個人としても健康食品会社を経営しながら、指導士会の幹事を続けていくことが、いかに大変であるかを身を以て経験させられました。結局続けられずに、勝手ながら1年で辞めさせていただきました。

松山会長は10年以上もの間、この重責を担っておられます。その情熱と献身的なご尽力に心から敬服いたします。私が思うに松山会長をおいて他に食品保健指導士会を引っ張ってってくれる方はいないだろうと思います。残念ながら、この度は会長を辞すること。老妻心ながら次の会長として松山さんのような方が見つかるのだろうか心配しております。

少し、指導士会に対する私見を述べます。食品保健指導士の役割は、帰るところは「健康食品を正しく普及していく」ことだと思います。現在、世の中には健康食品（あるいはサプリメント）が溢れ出ています。これに

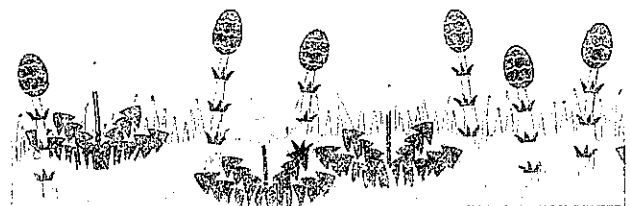
対し消費者は「どの健康食品を選んだらいいかわからない」という意見が非常に多く見受けられます。

消費者が、なぜ健康食品を利用するのか？ それは当然のことながら「健康でいたい、病気になりたくない」ことを望んでいるからです。今や日本人の6割ちかくが、がんや心臓病、脳卒中などのいわゆる『生活習慣病』で亡くなっています。また、この生活習慣病を主な原因として要介護になる高齢者も著しく増加しています。つまり、健康食品（あるいはサプリメント）の大切な役割は、生活習慣病のリスク低減に寄与するものではないかと思うのです。

もちろん生活習慣病の予防には、厚生労働省のいうところの「食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの習慣」を改善していかなければなりません。したがって食品保健指導士は、たんに健康食品（あるいはサプリメント）を普及していくだけでなく、同時に、それらの各習慣を幅広く取り込みアドバイスしていかなければならない立場ではないでしょうか。

このような立場で消費者にアドバイスしていくためには、まずは食品保健指導士というものを世の中で認知してもらわなければなりません。幸いなことにデジタル環境が益々進展しております。ブログ、YouTube、SNSなどを活用して食品保健指導士が世の中に情報を発信するというのも大きな力になるはずですが、こうして認知されていけば、おのずと食品保健指導士に対する存在感が増して、そのニーズも高まっていくでしょう。

松山会長への感謝とともに、食品保健指導士ならびに日本食品保健指導士会の益々のご発展を心より願っております。

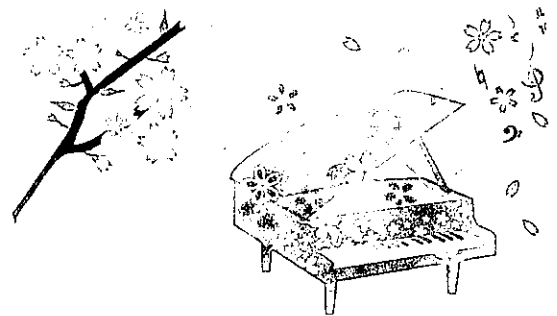


個人的資質への依存だけでは組織の継続は困難

食品保健指導士 五十嵐 幸枝

ご無沙汰しておりました。山形の五十嵐です。個人的な関心から指導士資格を取得し、貢献できることはないかという動機で幹事募集に応募したことが本会運営に参加したきっかけでした。幹事として食品保健指導士会の皆様とお会いできましたことに感謝いたします。

今回松山会長が任期満了を迎えることを知り、これからの運営について少し考えさせられました。様々な立場で資格を取得した方達をまとめていくことの難しさや個人的資質への依存だけでは組織としての継続は困難になってくるのではないかと思います。私見ですが、これまでのご縁を生かして仲よし倶楽部的な組織として人数は少なくとも有志でアットホームな運営を行うことに合意する方で継続する方法もあるのかもしれないし、一定の社会的責任を負う組織として存続するという選択肢もあると思います。指導士としての社会的責任をどのように定義するか、継続のためのマネジメント体制をどのように構築するか、といったことを実現することは並大抵のことではありませんが、事業継続を期待する一人としては、どのような方向に進んでいくのか大きな岐路に立っていると感じているところです。



新会員のご紹介

日本食品保健指導士会は「食品保健指導士」という資格を取得した人達が、独自に勉強の場を創造し、さまざまな情報を共有して自分たちのさらなるスキルUPを目指していこうという趣旨で設立された私的団体になります。

2003年（平成15年）3月20日にランドヒル市ヶ谷で設立式が開催され、今年で18周年を迎えることとなります。会員253名からスタートした指導士会ですが、現在は約600名（令和3年3月1日現在）となっております。

2020年度（第42回期）の食品保健指導士養成講習会は、コロナ禍の影響で初めてオンラインで行われ、42名の合格者が認定されました。合格おめでとうございます！そして、その中から3月10日現在、20名の方が新しく指導士会に入会されました。下記に新入会の指導士をご紹介します。

【新規入会者】

山岸 宣夫指導士（千葉県）	土生 弥生指導士（東京都）	松尾 阿美指導士（鹿児島県）
前田 和広指導士（愛知県）	成毛 孝行指導士（神奈川県）	古市 香奈指導士（鹿児島県）
有吉 りさ子指導士（大阪府）	杉崎 文彦指導士（東京都）	小屋敷 祐未指導士（鹿児島県）
山崎 貞男指導士（東京都）	一岡 頼子指導士（大阪府）	原口 なつき指導士（鹿児島県）
渡邊 美樹子指導士（東京都）	徳田 美穂指導士（広島県）	和田 悠指導士（鹿児島県）
橘 拓哉指導士（千葉県）	片岡 みさき指導士（鹿児島県）	栗林 宏美指導士（広島県）
福士 宗光指導士（北海道）	松永 多聞指導士（鹿児島県）	以上20名（順不同）

日本食品保健指導士会会員の皆様への感謝のメッセージ!!



会員の皆様、今年度私は日本食品保健指導士会の会則に従いまして1期2年2期とコロナの影響で総会において特別延長の決定により5年間、会長職を務めさせて頂きましたが任期満了となりましたので会長職を退くことになりました。

顧問の1年を除き9年間の会長職、その前の4年間は幹事、それ以前は仲間東京の集いを立ち上げましたので、通算15年指導士会とともに歩んでまいりました。

日本健康・栄養食品協会も財団法人から公益財団法人となり、様々な変革が施行され、指導士の更新制度が始まり、委託事業が開始されました。指導士会も車の両輪であった時代から自立の道を歩まざるを得なくなりました。ちょうど私が会長になった時です。

何もかも手探りで悪戦苦闘の毎日でした。「ボランティアからの脱却」と「会員相互のコミュニケーション」を旗印に、消費者に正しい健康食品の使い方をお伝

えすべく、イベントや展示会、研修会等、5支部の協力と会員の皆様のサポートと応援で継続できました。

本当に有難うございました！感謝申し上げます。

20年前、日本の健康食品は、トクホ以外は一切の効果効能もうたえず情報も少なくアドバイザースタッフは、必要な存在でした。

しかし現在は機能性食品制度もでき、消費者は多方面から情報を取ることが出来、自分に必要な健康食品を選択することが出来ます。指導士の皆様も自己研鑽の為の情報に手に入れることが出来るようになりました。

新しい時代の夜明けはすでに到来しております。指導士会も昨年コロナ禍の中オンラインセミナーを実施し、全国各地から会員が研修会に参加し、好評を得ましたがリアルセミナーと違って時間と労力をかけなければできないことを知りました。

協会の養成講習会もオンラインで開催されました。この現象は当分続くと思います。そしてもう元の状態に戻ることはないと思います。ITがどんどん発達し、健康食品業界の未来を変えていくでしょう。

指導士会も見直す時期がきていると思います。

どんなことにも新しい一歩を踏み出すのは勇気が必要ですし、多大なエネルギーが必要です。“かもめのジョナサン”の物語ではないけれど、皆さんスキルを磨いて新しい未知の世界に飛び立ちましょう。みんなで“ジョナサン”になりましょう。

またいつか皆様とお会いできるかも知れませんね。現執行部の皆様、各支部の皆様、新風を吹き込んでくれることを切に希望します。どうぞ宜しくお願い致します。

最後に、指導士会は私にとって「最高の出会い」のツールでした。沢山の指導士や関係者と出会い、場面、場面が私の人生の宝物になりました。

『あ・り・が・と・う・ご・ざ・い・ま・し・た!!』



日本食品保健指導士会 会長
松山 理恵子